
平成23年1月期第2四半期(累計) 決算参考資料

平成22年9月1日

(株)サガミチェーン

東証・名証1部上場 コード:9900

設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	—————	P2
2. 平成23年1月期第2四半期(累計)の業績概況	—————	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	—————	P3
4. 店舗展開の状況	—————	P3
5. 平成23年1月期第2四半期(累計)の業績背景	—————	P4
6. 平成23年1月期の業績予想	—————	P5
7. サガミ中期経営計画について	—————	P5

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は5社であります。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金（千円）	事業の内容	議決権の所有 割合（％）
株式会社ディー・ディー・ エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店店舗への材料 提供及び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命 保険の代理業務 環境機器のメンテ ナンス業務	100.0
株式会社エー・エス・サガ ミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	71.4
株式会社ボンパナ	名古屋市守山区	300,000	ベーカリーの製造 販売	100.0
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	93.4 (16.5)

※議決権所有割合の（ ）書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成23年1月期第2四半期(累計)の業績概況

○連結業績の概況

○個別業績の概況

単位 (百万円/円)	平成21年 7月期	平成22年 7月期	前年比 (%)	単位 (百万円/円)	平成21年 7月期	平成22年 7月期	前年比 (%)
売上高	10,942	9,626	△12.0	売上高	9,678	8,258	△14.7
営業利益	△377	△359	—	営業利益	△385	△307	—
経常利益	△354	△325	—	経常利益	△381	△278	—
当期純利益	△1,402	△980	—	当期純利益	△1,407	△882	—
一株あたり 当期純利益	△57.5	△40.2	—	一株あたり 当期純利益	△57.6	△36.1	—

○第2四半期決算の配当について

第2四半期決算の配当つきましては、3月4日発表の通り見送ることといたしました。

○株主優遇策について

平成22年7月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当（通期換算 3万円）の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成22年 1月期	平成22年 7月期
総資産	17,049	16,547
純資産	11,519	10,391
自己資本比率	67.5	62.7
一株あたり純資産	471.7	425.5

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成21年 7月期	平成22年 7月期
営業活動によるキャッシュフロー	△435	△477
投資活動によるキャッシュフロー	△180	△326
財務活動によるキャッシュフロー	△218	802
現金及び現金同等物 期末残高	2,950	2,624

○設備投資について

連結設備投資は 501百万円（H21.7実績 348百万円）となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 258百万円（H21.7実績 287百万円）となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成22年1月期 店舗数	平成22年7月期 (第2四半期末実績)			平成23年1月期計画 (通期計画)		
		出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	136	—	3	133	—	3	133
どんどん庵	81	1	5	77	2	6	77
あいそ家	11	3	—	14	3	—	14
上海盛賀美	4	1	—	5	2	—	6
製麺大学	—	3	—	3	7	—	7
その他	6	2	—	8	5	—	11
合計	238	10	8	240	19	9	248

○第2四半期累計期間の店舗展開の状況について

新業態開発として、「うどん」を主体とした大型セルフ店「製麺大学」を開発し3店舗を出店いたしました。また、ボランティアチェーン等のフランチャイジーの試験店を2店舗出店したのに加え、「どんどん庵1店」「上海盛賀美1店」、業態転換による「あいそ家3店」を出店し、これにより出店数は10店（うち純新店数7店）となりました。一方、閉店につきましては「どんどん庵5店」、業態転換のため「サガミ3店」の合計8店（うち純閉店数5店）となり、これにより期末の店舗数は240店となりました。

○平成23年1月期の店舗展開の計画について

業態変更を含む新規出店は「製麺大学7店」「あいそ家3店」「上海盛賀美2店」「どんどん庵2店」「その他業態5店」の合計19店（うち純新店数16店）を計画しております。一方、閉店につきましては「どんどん庵6店」、業態転換のため「サガミ3店」の合計9店（うち純閉店数6店）を見込み、これにより平成23年1月期末の店舗数は248店を計画しております。

5. 平成23年1月期第2四半期(累計)の業績背景

- (1) 第2四半期累計期間の業績につきましては、減収・増益となりました。売上高は三期連続の減収。営業利益、経常利益につきましては三期ぶり、当期純利益は四期ぶりのそれぞれ増益となりました。これは、平成22年1月期末（以下 前期末）に不採算店舗を19店閉鎖したことにより、売上高は減少したものの収益性が改善したためであります。
- (2) 第2四半期累計期間の取り巻く環境につきましては、政府の経済対策や新興国向け輸出の拡大等により、緩やかではありますが景気回復基調となりました。一方、国内消費におきましては所定外労働時間の増加等により勤め先収入は改善しているものの、消費支出に回復の兆しは見られず依然低迷が続いております。外食産業におきましては、生活防衛意識を背景に外食機会や外食動機は冷え込んでおり、引き続き厳しい環境となりました。また、お客様の低価格志向は定着しており、外食業界全体で価格競争の様相を呈しております。
- (3) 売上高につきましては、前年同期比 12.0%減の9,626百万円となりました。これは、前期末の店舗閉鎖による売上高の減少に加え、主力業態「サガミ」の既存店売上高が前年同期比 4.1%減となったためであります。
- (4) 売上原価率は前年同期比 0.6%ポイント増加の31.9%となりました。販管費は店舗閉鎖による固定経費の減額や経費削減計画の効果等により前年同期比 982百万円の減額となりました。これにより、営業損失は前年同期比 17百万円改善の359百万円、経常損失は前年同期比 29百万円改善の325百万円となりました。
- (5) 当期純利益におきましては、経常損失に加え減損損失や資産除去債務適用に伴う影響等 688百万円を特別損失に計上したため、980百万円の純損失となりました。なお、平成21年7月期は減損損失の計上や繰延税金資産の取り崩し等により1,402百万円の当期純損失を計上しております。このため、前年同期比では421百万円の改善となりました。
- (6) 平成22年3月4日公表の業績予想（以下 期初予想）におきましては、既存店売上高を前年同期比 3.8%減を計画していたことに加え、前期末の店舗閉鎖による売上高及び経費の減少を見込んでおりました。また、売上原価率におきましても購買単価の減額等により前年同期比 0.4%ポイント低下を計画しておりました。この結果、期初予想比では売上高が323百万円の減収、営業利益は239百万円、経常利益では235百万円のそれぞれ減益となりました。
また、期初予想では特別損失を605百万円を見込んでおりましたが、実績では資産除去債務適用による影響額等が増加し、これにより当期純損失は期初予想比 240百万円の減益となりました。
- (7) 主力業態「サガミ」の既存店の状況につきましては前年同期比、客数1.5%減、客単価1.8%減となり、これにより売上高は4.1%減となりました。

6. 平成23年1月期の業績予想

○連結業績予想

単位 (百万円/円)	平成22年 1月期	平成23年 1月期 (予)	前年比 (%)
売上高	22,228	20,250	△8.9
営業利益	△453	0	—
経常利益	△426	30	—
当期純利益	△2,925	△890	—
一株あたり 当期純利益	△119.9	△36.4	—

○個別業績予想

単位 (百万円/円)	平成22年 1月期	平成23年 1月期 (予)	前年比 (%)
売上高	19,570	17,530	△10.4
営業利益	△404	50	—
経常利益	△385	60	—
当期純利益	△2,796	△670	—
一株あたり 当期純利益	△114.6	△27.4	—

- 平成22年8月23日に直近の業績動向を勘案したうえで、平成22年3月4日に公表いたしました、平成23年1月期（平成22年1月21日～平成23年1月20日）の業績予想数値を修正いたしました。
- 売上高につきましては前年同期比 8.9%減の20,250百万円を計画しております。これは、主力業態サガミの既存店売上高を前年同期比 3.1%減で見込んでいる事に加え、前期末に閉鎖した店舗の売上高が減少するためであります。
- 売上原価率は前年同期比 0.1%ポイント低下の31.2%を見込んでおります。販管費におきましては、前期末の店舗閉鎖による固定経費の減額や経費削減の効果を見込み前年同期比 1,784百万円減額の13,930百万円を計画しております。これにより、営業利益は前年同期比 453百万円増益の0百万円、経常利益では前年同期比 456百万円増益の30百万円を計画しております。
- 当期純利益におきましては、減損損失等による特別損失920百万円を見込むことから、890百万円の純損失計上を見込んでおります。

7. サガミ中期経営計画について

○中期経営計画の概要

当社は中長期にわたる企業活動の継続と発展を実現し、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上を図るためには、早期の業績改善と再成長に向けた施策が必要であると判断しております。そこで、劇的に変化する外部環境に即応し、自社の強みを最大限発揮できる組織体制の実現を図るため、平成25年1月期を最終年度とする「サガミ中期経営計画」を策定いたしました。

主な取り組みとしましては、第一に「サガミ業態の再構築」を推進しております。これは、利用動機に合わせたメニューやお客様層の拡大と定着等による売上拡大策に加え、店内作業の効率化、経費削減の徹底等により、生産性向上と効率化を図る内容であります。第二に「業態ポートフォリオの見直し」として、サガミ既存店から「あいそ家」への業態転換を推進すると共に、「うどん」を主体とした大型セルフ店の開発及び店舗展開等に取り組んでおります。そして、最後に「経営基盤の強化」として、施策に対する実行力の強化や、市場の変化に即応できる体制整備に取り組んでおります。

これらの施策を確実に遂行することで、中期経営計画における数値目標は実現できるものと判断しております。なお、中期経営計画の詳細については平成22年3月4日に発表しました「サガミ中期経営計画に関するお知らせ」をご覧ください。

単位 百万円	H21.1 ('09.1)	H22.1 ('10.1)	H23.1予 ('11.1予)	H24.1計画 ('12.1)	H25.1計画 ('13.1)
売上高	25,582	22,228	20,250	20,570	20,880
経常利益	227	△426	30	210	260
当期純利益	△549	△2,925	△890	0	100

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。